第33回日本看護診断学会学術大会

臨床実践を支える看護診断と中範囲理論
― DX時代における看護実践の再構築 ―

会期　2027年7月17日（土）・18日（日）

会場　神戸芸術センター
〒651-0055　神戸市中央区熊内橋通7-1-13

大会長　下舞 紀美代（兵庫大学）

企画・実行委員長　黒田 裕子（湘南鎌倉医療大学大学院）



演題登録期間
2026年11月30日（月）～2027年4月16日（金）

事前参加登録期間　2026年12月1日（火）～2027年5月31日（火）
参加費：会員　10,000円　　非会員　12,000円　　学生　1,000円

一般参加登録期間　2027年6月1日（火）～2027年7月18日（日）
参加費：会員　11,000円　　非会員　13,000円　　学生　1,000円

問い合せ先：第33回日本看護診断学会学術大会　運営事務局
〒247-0066　鎌倉市山崎1195-3
湘南鎌倉医療大学大学院看護学研究科内
E-Mail: 33_jsnd@hyogo-dai.ac.jp

大会HPはこちら

第33回
日本看護診断学会学術大会

会期 2027年7月18日（土）・19日（日）

会場 神戸芸術センター

この度，第33回日本看護診断学会学術大会を，令和9年7月17日（土）～7月18日（日）の2日間，神戸芸術センターにて開催する運びとなりました。

本大会のメインテーマは「臨床実践を支える看護診断と中範囲理論 ― DX時代における看護実践の再構築 ―」としました。看護診断は，人間の健康反応を捉え，看護問題を明確にするための共通言語であり，ゆりかごから看取りまでのあらゆるライフステージにおいて看護実践を支える重要な概念です。また，看護診断を臨床で活用するためには，中範囲理論を基盤とした看護過程の展開が不可欠です。看護診断と理論，臨床実践を結び付け，看護過程を科学的に捉え直す機会としたいと考えております。

近年，DX（デジタルトランスフォーメーション）が進む医療環境の中で，看護実践の質を高めるための知識基盤として，看護診断の重要性はますます高まっています。電子カルテやデータ活用が進展する中で，看護診断は看護の専門性を可視化する共通言語として重要な役割を担います。看護実践の場で看護師が日々直面する課題を共有し，看護診断を実践に活かすための新たな視点を見出す機会としたいと考えております。

多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げております。

主なプログラム

詳しくは大会ホームページをご覧ください。

大会長講演

「臨床実践を支える看護診断と中範囲理論
－ DX時代における看護実践の再構築 －」

兵庫大学大学院看護学研究科　下舞紀美代

招聘講演

「論文作成に生成AIを活かす実践ワークショップ」

近畿大学医学部（皮膚科学）主任教授　大塚 篤司

教育講演

看護診断と理論，臨床実践を結び付け，看護過程を科学的に捉え直そう！

「役割理論」	椙山女学園大学 学長	黒田 由彦
「自己概念」	神奈川大学人間科学部	山蔦 圭輔
「ストレス-コーピング理論」	弘前大学大学院	米田 健一郎
「コンフォート理論」	神戸市看護大学 学長	江川 幸二
「エンド・オブ・ライフケアに関する理論」	兵庫大学大学院看護学研究科長	久米 弥寿子

シンポジウム

「看護過程はどう変わるのか－デジタル・トランスフォーメーション(DX) がもたらす看護実践・教育の再構成－」

問い合せ先：第33回日本看護診断学会学術大会　運営事務局
〒247-0066　鎌倉市山崎1195-3
湘南鎌倉医療大学大学院看護学研究科内
E-Mail: 33_jsnd@hyogo-dai.ac.jp

大会HPはこちら